

日本音声言語医学会

理事長 香取 幸夫



理事長
香取 幸夫

多様な職種の会員が、音声・言語の精緻な機能を学び、障害の治療を担っています

日本音声言語医学会は1956年に設立され、2021年現在約1,600名の多職種の会員が音声・言語に関わる研究、教育、治療の開発を進めている学術団体です。

私たちは、他者に生活に必要な情報や感情を伝えるために、言語を発達させ、それを会話や歌で表出するために発声(音声をつくる)と発話(言葉を話す)の機能を発達させています。このコミュニケーションには、口腔・咽頭・喉頭といった末梢の器官の働きに加えて、言語を理解し末梢の運動を神経制御するために、脳の高次機能や認知機能を必要とします。

これらの音声・言語器官の働きや障害の治療に関しては未知の部分が多く、医学、障害学、工学、心理学、教育学など、さまざまな分野が共同して音声言語医学を進展させ、コミュニケーション障害の治療を担うことが、本学会の特徴の一つです。具体的には、発声、発話、言語機能の研究に加えて、声帯結節、声帯麻痺、けいれん性発声障害などの音声障害、構音障害、吃音などの発話障害、さらに失語症などの言語障害に対する研究や治療を行っています。



会員医師、言語聴覚士による音声言語障害の治療風景

学術講演会に学生、研修医を招待しています

学術講演会では学生、臨床研修医の方々には参加費を免除しています。

国際音声言語医学会の日本の窓口として活動しています

国際音声言語医学会(The International Association of Communication Sciences and Disorders)の加盟団体として、広報活動に積極的に参加しています。

「音声言語医学」の刊行と優秀論文賞・奨励賞

学会誌の「音声言語医学」を発行しています。音声部門、発話部門、言語部門それぞれの優秀論文賞、ならびに若手を対象とした奨励賞を制定し、さらに良質な科学論文の投稿を促しています。



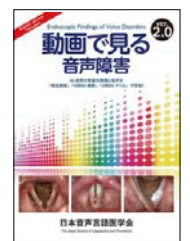
学会誌ホームページ QR コード

音声言語医学に関する研究助成

正会員を対象に、創造性に富み、有益な研究テーマに対しその研究を支援するため、1年当たり2～3件に対して研究費を助成しています。

ガイドラインや教材の作成

「音声障害診療ガイドライン2018年版」を作成、発行しています。また、「幼児吃音臨床ガイドライン第1版」の作成を支援しています。



学生、若手治療者・研究者の参加を歓迎します

現在の日本では 超高齢社会の到来、小児医療・療育の発展、重症患者の救命向上等により、音声言語障害の治療を受ける方々が急増しています。ぜひ、学会ホームページの閲覧をいただければと思いますが、歌唱、声楽や文学などの芸術に造詣のある会員諸氏も多く、治療学に加えて学問・芸術の方向でも充実した活動が期待できる学会です。

皆様のご参加を心より歓迎いたします。



入会ホームページ QR コード